

学校連携モデル研究事業2018

大川 剛

School collaboration model research project 2018

Tsuyoshi Okawa

沖縄県立博物館・美術館，博物館紀要 第12号別刷

2019年3月29日

Reprinted from the

Bulletin of the Museum, Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, No.12

March, 2019

学校連携モデル研究事業2018

大川 剛

School collaboration model research project 2018

Tsuyoshi Okawa

はじめに

沖縄県立博物館・美術館では、県民の自己啓発や学習を発表する場の提供、また博物館資料を活用した学習支援活動を目的として、ボランティア員の導入による学習プログラムの推進や、博物館学芸員の学校招聘による出前授業等を行っており、これらの活動は多様化する来館者のニーズに対し、よりきめ細かなサービスへの寄与と自己学習の場となることを目指している。

さて、当館教育普及はその活動において博物館班の学芸員・及び指定管理者と協働して教育普及活動を展開しているが、近年県内各校からは出前授業をはじめ、館の収蔵資料を利用した多岐にわたるサービス提供の要望が高まっている。

そして当館の各校に向けての学習プログラムについては、地域・学校のニーズに合った十分な教育プログラムサービスの向上を図る必要があり、今後当館資料の利用を活用し、来館者の増加に繋げるため、日々創意工夫と研鑽を重ねることが必要であると考ええる。

そこで、平成29年度(2017)をスタートに、「学校連携モデル研究事業」として、県内各学校における教育普及モデル校と連携し、各校種・年齢層にきめ細やかに対応した学習プログラムの開発を行って行きたいと考え取組を行い、本年度で2年目の実践となる。

ここでは、今年度における本事業の取組を紹介したい。

1 本事業2年目における取り組みについて

事業取組みの2年目に当たる2018年度(平成30年度)は、県内各学校における学校連携の教育普及モデル校への教育プログラムの研究および取組実践を以下の通り行うこととした。

- (1) 昨年度募集・選定を行った連携校以外にも全県の各校種に呼びかけを引き続き行う。
- (2) 館内における展示資料活用による学習プログラム充実のため、教職員向け学習プログラムの構築を昨年度に続き図る。
- (3) 国外における他館の取り組み事例等の調査を行う。

などの取り組みを行った。

詳しい取り組みについては、2以降の通りである。

2 県内各校への本事業呼びかけについて

県内各学校における、学校連携の教育普及モデルを募るため、平成30年度4月に、県内各校への本事業周知のため、昨年度と同様にリーフレットを配布した。リーフレットは昨年度刷新したものを使用し、

○各分野学芸員による出前授業の紹介

○館内プログラム内容の紹介

○貸し出し学習体験キット(ハンズオンキット)の紹介

等の内容を掲載し、博物館教育普及事業の概要が学校教職員に理解しやすいよう工夫を行い作成した。

※リーフレット配布は全県各種学校

今年度は学校訪問の他にも各校種の教職員の直接来館時においても、受入についての周知も図った。また、当館が所蔵している「ハンズオンキット(体

¹⁾ 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

Okinawa Prefectural Museum & Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa, 900-0006 Japan

験キット)」についてもリーフレットを刷新し県内各校への配布を予定しており、学校における利用を促す予定である。(平成31年3月配布予定)



図1-① ハンズオンリーフレット裏面



図1-② ハンズオンリーフレット裏面

3 連携推進校への実践

(1) 各学校における学習プログラムの実践

【沖縄県立球陽高等学校】連携校実践 1

- ①学習内容：学芸員による出前授業
「故宮博物院資料と当館資料について」
- ②当該校の修学旅行（台湾）の、事前学習として
- ③実施日：平成30年9月4日（火）
- ④対象学年：1学年
- ⑤出前授業後は当館へ来館し、美術工芸部門展時の鑑賞学習を行う。

【那覇市立天久小学校】連携校実践 2

- ①学習内容：学芸員による出前授業及び当館資料を利用した調べ学習の実践。
- ②実施日：

(出前授業) 平成30年7月6日（金）

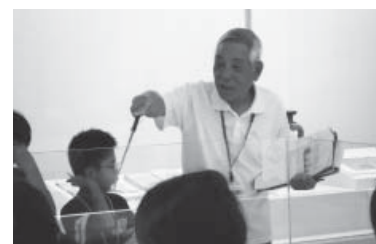
那覇市立天久小学校地域連携室にて

(来館学習) 平成30年7月12日（木）

当館総合展示室にて



天久小では教育普及担当学芸員を招聘して出前授業を行い、その後来館して調べ学習を行っている



「ジュニア学芸員になろう」というテーマで、館内資料の調べ学習を行う。

【沖縄県立宮古高等学校】連携校実践 3

- ①学習内容：学芸員による出前授業
「明治維新と琉球・中国・宮古島」
- ②当該校の世界史授業として
- ③実施日：平成30年11月12日（月）
平成30年11月13日（火）
- ④対象学年：1学年2学級
- ⑤今後歴史分野のほか人類分野、地学分野とも有機的に絡めた授業を展開する。



【那覇市立城南小学校】連携校実践4

- ①学習内容：当館利用による民具体験学習
- ②当該校の総合学習として
- ③実施日：平成31年1月24日（木）
- ④対象学年：3学年3学級
- ⑤ボランティアのサポートによる授業を展開する。

【離島における出前授業の実践】連携校実践5

- ①学習内容：博物館・美術館移動展開催に伴う、開催村での学芸員による出前授業実践。
※分野・内容については調整中
- ②当該校の授業および課外活動として
- ③実施：伊平屋村各校（平成30年度）
- ④対象学年：希望する全学年予定

(2) 学生によるボランティア活動

- ①学習内容：当館ふれあい体験室においてのボランティア活動
- ②実施：夏休み期間中（当館にて）

【沖縄尚学高等学校附属中学校の体験取組み】



学生による当館でのボランティア活動を通して、キャリア教育を支援。



【那覇市立那覇中学校の体験取組み】



4 夏休み期間中における、教職員向け講座について

本館教育普及事業においては、平成22年度より小学3・4年生向け学習プログラム「民具体験学習」受入を行い、現在も博物館ボランティア員による民具の着衣体験や展示室解説などが行われている。受入数も23年度の45校をピークに毎年30校前後の受入を行っているが、県内の周知も広まる中、学習プログラムへの申し込みが殺到し、ボランティアによる受入にも飽和状態が見られ、来館サービス充実についての課題が見られる状況であった。

また、教職員の方々からも自分たちで博物館資料を活用しての授業実践の要望に高まりが見られるようになった。

そこで、昨年の本事業初年度より既に作成・製本が完成していた展示資料解説マニュアルを活用して、博物館常設展示室における展示資料、民具体験学習における授業の指導作成・進行についての指導、ボランティアによる体験学習進行の解説等を行い、教職員の授業における活用を支援する講座取り組みを夏休み期間設定し行った。

(1) 期日 平成30年8月1日（水）

(2) 場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室・実習室（参加30名）

(3) 対象 県内小学校教諭・教職者

【講座の様子：展示解説】



ボランティアによる民俗部門展示の解説風景

【講座の様子：常設展示解説】



ボランティアによる常設展示解説の様子
古代から王朝時代までの沖縄の歴史を学んだ

【講座の様子：民具体験学習体験】



ボランティアによる民具体験学習説明の様子
実際に民具に触れ、使い方を学んだ

取り組みの結果、当館施設（実習室借用）を申請して、ボランティアの支援に依らない学校職員による民具体験実施の増加が見られた。

（平成29年度は6校、30年度は13校実施）

【教職員による民具体験授業実施】

教職員による民具体験の実施については、

- ①希望日の選定と申請
- ②教育普及担当者との事前打合せ
- ③来館による授業実践

以上の流れで行われている。

授業当日は教育普及担当1名が資料管理と状況に応じた細かな指示を行うなど、先生方が授業に集中できるよう配慮した。



講座を受講した先生方が、当館施設・資料を活用して授業を行った。

課題としては今年度講座では多くの特別支援学校の先生方が参加下さったのだが、取り組みは主に小学校の健常児を想定とした学習ノウハウとなっており、特別支援学校向けに対応した内容ではなかった。次年度においては特別支援学校向けの民具体験学習プログラムの充実を図っていきたいと考える。

5 教育普及事業における、海外博物館施設の事例調査について

当館における教育普及事業推進のためには、昨年度は国内における他館の事例等の調査を行った。今年度においては、さらに海外における事例等の調査の必要があると考え、台湾における博物館等の教育普及の事例調査を行い、併せて本館における来館時の

学習プログラム、および教育普及事業の更なる充実を図ることを趣旨として、平成30年4月に台北における視察を行い、9月には台南・高雄における視察を行った。

(1) 台北における調査

【4月26日（木）】

■国立台湾大学図書館

国立台湾大学図書館において開催されていた企画展「伊能 嘉矩」展に関わっておられる、陳 偉慧氏の案内により、展示解説を頂いた。伊能は台湾原住民社会の調査において細かな記録を残した日本人であり、展示会はその伊能の業績と研究内容を紹介するものであった。

展示においては、展示スペースは小さいながらも、展示の意図が外国人である私達にもよく理解できるものであった。特に、QRコードを使った解説補助機能は、伊能が行った調査の概要が良く理解できるものであった。



QRコードにスマホをかざすと、データベースから資料に関する解説を得ることが出来る

【4月27日（金）】

■士林国小校史室文物館

創立130周年を越える歴史を持つこの小学校では、学校独自の資料室を持ち、当小学校に関連する歴史資料を展示している。児童にも学校の歴史についての授業プログラムが行われており、来客者へ児童が展示解説を行っている。

当館においても、将来的には学校との連携を行っての、児童生徒による展示案内などが行えればと考えた。

その後、那覇市立天久小学校の取組みにおいて、士林国小校史室文物館の取組みにヒントを得た学習プログラムを導入した。



校内に展示室があり、事前にスケジュールが合えば、児童が展示解説を行ってくれる。



学校創立から130年間の児童数の推移をグラフにし記録している

■国立台湾博物館 本館

台湾最古の博物館であり、ここでは学芸員による展示解説を頂いた。常設展示には、芸術家とのコラボレーションによる展示演出を行うなど、洗練された印象があった。

■国立政治大学社会科学学院

当大学の王教授よりご厚意を頂いて、日本語学科学生の皆さんへ、同行した久部良（当館歴史担当学芸員）・筆者（大川）と合わせて1時間程の時間を頂き、沖縄県立博物館・美術館の教育普及事業についての紹介を行う機会を頂いた。

参加者との意見交換を通して、台湾における学芸員育成の取組など、貴重な意見を伺うことができた。



当館紹介の様子



【4月28日（土）】

■国立台湾博物館 土銀展示館

■鶯歌陶磁博物館

国立台湾博物館 土銀展示館は、主に恐竜時代などの化石資料を中心に展示を行っている、国立台湾博物館の支館である。

ガイドボランティアの服装。目立つベストを着用するなど、スタッフが一目でわかる工夫がなされている。



また、台北市郊外の鶯歌は、台湾随一の陶磁器の産地であり、鶯谷陶磁博物館は地元産業の歴史資料の紹介のほか、現代陶芸家の作品展示や様々な年齢層へのワークショップが大変充実している様子であった。この2館においては、多くの来館者がある当博物館において、館の案内表示やスタッフの服装の工夫による解りやすさなどが大変印象的であり、ガイドボランティアの服装など、ぜひ当館においても検討していければと考えた。

【4月29日（日）】

■国立故宮博物院

国立故宮博物院においては、当館における「ふれあい体験室」に当該する施設があり、部屋も広く、ハンズオンキットも大変充実していた。



■順益台湾原住民博物館

この博物館は、台湾の少数民族（原住民）についての資料を扱う、私立の施設である。ほかにも、ポ

スター公募展の企画など、芸術分野との関わりも大変充実した施設であるとの印象を持った。



（2）高雄・台南における調査

【9月18日（火）】

■高雄市長歴史博物館

日本統治時代に建設された建造物を利用して使用している博物館であり、特にこの建物を中心として起こった2・28事件を展示の題材として扱っている。事件当時の様子を大きなジオラマを使って解説しており、迫力があつた。

日本語の表記もある程度なされており、漢字表記も繁体文字であることから、比較的展示内容の理解が容易であった。



2・28事件の様子を展示した模型。

【9月19日（水）】

■国立台湾歴史博物館

台南市郊外にある博物館施設である。館内の展示は等身大のジオラマ模型がふんだんに使われており、台湾の旧石器時代から現代までの生活の様子や文化の変遷を紹介している。

注目すべき点として、学生の団体来館利用が多く、ガイドを担当するスタッフも解説訓練を受けた大学生が担っていた点である。このことは現在台湾の政策として全土で行われており、「台湾」の国民としてのアイデンティティの構築に力を入れており、各

種学校においても博物館資料を活用しての教育課程を盛んに取り入れていることによる。訪ねたこの日も数百人の学生が学習を行っていた。



ガイドボランティアの大学生。目立つ上着を着用するなど、スタッフが一目でわかる工夫がなされている。



【9月20日（木）】

■安平古堡（台南市）

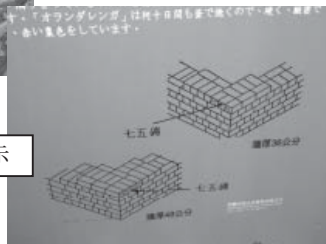
安平古堡は、ゼーランディア城とも呼ばれ、オランダ統治下時代に建造された城跡である。

その後旧日本軍の統治を経て現在に至るが、無料で入館できる、施設内に併設される博物館においては、交流員や解説員等の人員は存在しない様子であった。しかし、遺跡の歴史の変遷を紹介している資料の展示は、外国人であり現地の文字を片言でしか理解できない私にも理解しやすく、レンガ積み構造を理解するためのハンズオンキットも用意されるなど、解説の方法も工夫されていた。

また各種学校においても博物館資料を活用しての教育課程を盛んに取り入れている様子であり、訪ねたこの日も多くの学生が学習を行っていた。



レンガの積み方などを理解するためのハンズオンキット。木製で簡便であるが、理解しやすいものであった。



解説表示

【海外における視察全体を通しての所感】

今回の出張全体を通しての所感としては、現在の台湾は、自国国民としてのアイデンティティの構築に力を入れており、様々な文化や人種が多様に織り交ぜられた自国文化への理解を深めることに力を入れている様子が、展示内容の容易な理解の工夫や大学生ボランティアの育成などに表れているとみられ、大いに刺激となった。

各種学校においても博物館資料を活用しての教育課程を盛んに取り入れていることなど、沖縄における学校連携取り組みへの工夫・改善に向けて、大きなヒントを与えてくれるものであった。

6 平成31年度の事業設計について

（1）学校連携協力校との関わりについて

平成31年度における協力校との関わりについては、現在調整中の学校も含め、以下の取り組みを展開していく考えである。調整中の学校において（平成31年1月現在）は、今後更に調整を推進していきたいと考える。

また、協力校以外にも、出前授業等の要望があれば、学芸員との調整の上対応していきたい。

離島における移動展（平成30年度伊平屋島・平成31年度伊江島）においても、各校と調整の上学習プログラム実践を推進していきたい。

（2）平成31年度取組みの連携校

①沖縄県立球陽高等学校

○出前授業の実施

（美術工芸担当学芸員）

②沖縄県立宮古高等学校

○出前授業の実施

（歴史担当学芸員ほか）

③那覇市内公立・私立中学校

○夏休み期間における学生ボランティア受け入れ

④那覇市立天久小学校

○出前授業実施

（教育普及担当学芸員）

○当館博物館常設展示解説

（ボランティアによるサポート）

⑤那覇市立城南小学校

○民具体験学習

（ボランティアによるサポート）

⑥離島における各学校

- 出前授業の実施
- ◇伊江村立伊江小学校
- ◇伊江村立伊江中学校
- ◇伊江村立西小学校
- (各分野学芸員による)

下記の各館・各学校のご協力に感謝申し上げます。
(順不同)

- ・国立台湾大学図書館
- ・故宮博物院（台北市）
- ・士林国小校史室文物館
- ・国立台湾博物館 本館
- ・国立政治大学社会科学学院

- ・国立台湾博物館 土銀展示館
- ・鶯歌陶磁博物館
- ・順益台湾原住民博物館
- ・高雄市立歴史博物館
- ・国立台湾歴史博物館
- ・安平古堡（台南市）
- ・沖縄県立球陽高等学校
- ・沖縄県立宮古高等学校
- ・那覇市立那覇中学校
- ・沖縄尚学高等学校附属中学校
- ・伊平屋村立伊平屋小学校
- ・伊平屋村立伊平屋中学校
- ・伊平屋村立野甫小中学校